

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 26 年 5 月 13 日現在

機関番号：32611

研究種目：挑戦的萌芽研究

研究期間：2011～2013

課題番号：23652041

研究課題名(和文) 高等教育機関における音楽専門教育を通じた職業的キャリア発達に関する実態研究

研究課題名(英文) Actual study about the career development enhanced by music professional subjects in higher educational institutions

研究代表者

久保田 慶一 (Kubota, Keiichi)

国立音楽大学・音楽学部・教授

研究者番号：70170032

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,700,000円、(間接経費) 810,000円

研究成果の概要(和文)：我が国および欧米の音楽大学ならびに音楽学部において、学生のキャリア形成を促すために大学や学部はどのような取組を行っているのかを、インタビュー調査した。また国内の音楽大学や音楽学部に対しては、特定科目を履修することで、キャリア成熟度がどのように変化しているのかを統計的に調査した。欧米の大学では学外機関との連携をカリキュラム化して大学教育とキャリア教育との一体化を図っているが、我が国の大学や学部では学内の資源を活用し、また企業などが提供するキャリア支援プログラムに頼る傾向が強い。今後、我が国では学生数の減少などに対応するために、キャリア支援のための大学連携が望まれる。

研究成果の概要(英文)：I researched the projects carried by music colleges and faculties in Japan and European countries to enhance the career development of music students. And to Japanese faculties I studied how enhanced the curriculum of subjects the degree of career development of students. The European colleges have many relationship with other institutions for career enhancement of students, but Japanese colleges use the resources of own colleges. In future these colleges must make a co-relationship for career supports of music students.

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：芸術学・芸術史・芸術一般

キーワード：キャリア支援 音楽大学 キャリア教育 教養教育

1. 研究開始当初の背景

大学におけるキャリア支援は、大学生のキャリア発達課題である職業的自己アイデンティティの確立を支援するものであり、大学の専門教育との有機的な連携が必要である。とりわけ職業系大学では専門教育と将来の職業選択は「予定調和」なように見えるが、現実には職業探索期に困難を感じる学生が多い。本研究では、専門教育と職業的自己アイデンティティの確立をどう有機的につなげるかという、大学におけるキャリア支援の一般的な問題や課題を、我が国の4年制音楽大学ならびに欧米の音楽院の実態調査を通して明らかにし、今後の職業系大学や一般大学における専門教育を通してのキャリア支援の在り方を検討するのに必要な知見を得る。

2. 研究の目的

我が国ではバブル経済が破綻した1990年以降、雇用管理体制の激変、雇用形態の多様化、そして大企業にまで及ぶ倒産など、勤労者が安定した職業人生を送ることは難しくなった。またこのような雇用環境の流動化を背景として、若年労働者の職業観、社会人としての基礎力の未熟が指摘され、彼らの早期退職が社会問題化して久しい。

大学ではこうした社会情勢の変化に対応し、近年、大学生向けのキャリア教育あるいはキャリア支援が盛んである。しかし多くの大学で行われているキャリア教育あるいはキャリア支援は、就職活動支援にすぎず、大学生期のキャリア発達課題や学生の将来のキャリア発達を考慮した本来のキャリア支援になってはいないのが現状である。

大学生のキャリア発達の課題が将来の職業選択、すなわち職業的自己アイデンティティの確立であり、また大学において学生は教養教育と専門教育を通して職業的技能や知識を獲得することから、大学におけるキャリア支援が有効であるためには、とりわけ職業

的自己アイデンティティの確立と専門的技能や知識とが有機的に結合されることが必要である。

特に、将来の職業人養成を主たる任務とする職業系大学では、一般大学に比べて、職業的自己アイデンティティの確立と専門的技能や知識の獲得は「予定調和的」に有機的に結合され、大学生のキャリア支援も問題なく行われるかのように思われる。しかし高校生の段階で十分な進路指導を受けることなく、「暫定的な」職業選択をして、これら職業系の大学に入学してきた学生は、一般的な大学生が2年次から3年次にかけて経験する将来の「職業探索」の時期に、きわめて危機的な状況に置かれる場合があり、このような学生は、全入時代を背景に増えつつある。

本研究では、大学における職業的自己アイデンティティの確立と専門的技能や知識の獲得の有機的な結合を基礎としたキャリア支援のあり方を探るために、我が国の4年制の音楽大学を研究対象として、現在行われているキャリア支援の実態を調査し、そこから現状と問題を把握し、職業人養成を目的とする大学において求められるキャリア支援の内実を明らかにする。また欧米の同等のいくつかの専門職業大学ですでに実践されているキャリア支援の実態をも調査し、今後、我が国の音楽大学におけるキャリア支援に新たな提言を行いたい。

音楽大学の学生は入学までに多くの労力と時間をかけて職業的技能の研鑽に励むが、卒業後に直ちに演奏家として活動できるわけではなく、職業選択と大学での専門の実現とのジレンマ、ひいては人生の目的を喪失に悩む若者が多い。しかし、音楽大学のキャリア支援はこれまで最も看過されてきた領域である。このような問題は医学部、法科大学院などの職業系大学・大学院が共通に抱えるジレンマでもある。本研究はこの種の大学におけるキャリア支援のあり方に指針を示すも

なのであると同時に、他の一般大学におけるキャリア支援のあり方を考えるうえでも、有益な示唆を提供しうるものとする。

3. 研究の方法

本研究の期間は3年間とし、我が国の音楽大学・学部（9機関）と欧米の音楽院（3機関）を対象として行う。研究は書面調査とインタビュー調査の2種類からなる。書面調査では、各機関におけるカリキュラムとキャリア形成の関係と、学生のキャリア発達（意識）を調査し、インタビュー調査では、カリキュラム編成やキャリア支援担当の教職員、ならびに学生へのインタビュー調査を行う。

1. 我が国の音楽大学における専門教育とキャリア形成の関係に関する調査

我が国の中核的な私立の音楽大学である3大学を対象とし、専門教育とキャリア形成の関係に関する書面調査と現地調査を実施する。対象とする大学は、国立音楽大学（東京都）、名古屋音楽大学（愛知県）、大阪音楽大学（大阪府）の3大学とする。

書面調査（1）

カリキュラムとシラバスから講義・演習・実技等において、学生の職業観・勤労観を養う視点からの教育が実施されているか、その場合、どのような授業方法が工夫されているのかなど、汎用性の高い教育方法や実践を抽出する。

書面調査（2）

当該大学の学生（全学年）を対象にしたアンケート調査を実施する。上述した授業科目を受講した学生と受講しなかった学生を2グループに分けて、授業の効果や学生の職業観・勤労観を調査する。また共通の調査項目を設定して、大学全体での学年別等による職業観・勤労観に関する意識の相違や特徴を調査する。

インタビュー調査

調査した大学を訪問し、カリキュラム編成やキャリア支援を担当する教職員、学生に対してインタビュー調査を行う。書面調査で不明だった諸点を確認すると同時に、とりわけ

学芸に対しては、大学入学以前と大学に入学してからの将来の職業についてどのように考えてきたかの「振り返り」を促し、意識の変化を個別的に把握する。

2. 欧米の音楽職業大学における専門教育とキャリア形成の関係に関する調査

初年度はイギリスのロイヤル・アカデミー音楽院とする。ロイヤル・アカデミー音楽院は「ロイヤル」の名前をもつが国の財政から独立した私立の音楽院である。音楽家養成（＝職業訓練校）機関としての歴史が長く、ロンドン大学と提携して学位を与えたのは1999年からで、イギリスで唯一学位が取れる音楽学校である。大学生のキャリア支援全体において先進的なイギリスにある機関として注目したい。

以上の書面調査ならびに現地調査でのインタビュー調査の調査項目の作成にあたっては、音楽学、心理学、教育学の3つの専門的視点から作成し、汎用性の高い調査票をめざす。各大学で行うキャリア支援のアセスメントに活用できるようにする。

【平成23年度】

1. 我が国の音楽大学における専門教育とキャリア形成の関係に関する調査

平成22年度と同様の調査を行う。対象とする大学は、我が国の国公立の音楽学部とし、東京芸術大学音楽学部（東京都）、愛知県立芸術大学音楽学部（愛知県）、沖縄県立芸術大学音楽学部（沖縄県）の3学部とする。

2. 欧米の音楽職業大学における専門教育とキャリア形成の関係に関する調査

平成22年度と同様の調査を行う。対象とする大学は、フィンランド・ヘンルシンキにあるシベリウス・アカデミーを調査対象として、上記1.で行った我が国の音楽大学を対象に行ったのと同じ調査を行う。シベリウス・アカデミーは国立大学であり、フィンラ

ンドの音楽家及び教育者の養成を担い、国の音楽文化創生をも負っている機関である。特に専門教育と音楽家の社会参加(アウトリーチ教育)を促す教育とに成果をあげている大学であり、本研究の対象としてきわめて興味深い大学である。

【平成24年度】

1. 我が国の音楽大学における専門教育とキャリア形成の関係に関する調査

平成22年度、平成23年度と同様の調査を行う。対象とする大学は、初年度に調査できなかった、我が国の中核的な私立音楽大学とする。調査対象は、桐朋学園音楽学部(東京都)、大阪芸術大学音楽学部(大阪府)、作陽大学音楽学部(岡山県)の3学部とする。

2. 欧米の音楽職業大学における専門教育とキャリア形成の関係に関する調査

平成22年度と同様の調査を行う。対象とする大学は、アメリカ合衆国ニューヨーク市のジュリアード音楽院とする。ジュリアード音楽院は私立で、運営資金の財源は多額の寄付金による。最高クラスの音楽家養成を行っている機関として有名である。しかしニューヨークのマンハッタンに位置するという関係から、アウトリーチ教育を先進的に行ってきた音楽専門の高等教育機関として知られている。本研究の対象として最も重要な機関である。

3. 報告書の作成・配布

本研究で行った調査の結果、分析を総括し、報告書を作成し、関係諸機関に配布する。

4. 研究成果

大学教育の目的は、教養教育や専門教育による学術の教授であり、同時に職業的自己アイデンティティの確立にある。従って大学教育では、専門教育と職業的キャリア発達の育成とが有機的に連携する必要がある。とりわ

け職業人養成大学では、専門教育と将来の職業選択は「予定調和」なように見えるが、現実には職業探索期に困難を感じる学生が多い。本研究では、専門教育と職業的キャリア発達課題をどう有機的につなげるかという問題を、わが国の4年制音楽大学ならびに欧米の音楽院における、カリキュラムと授業内容及びその教育効果の検証を通して、実証的に研究する。研究成果はわが国の職業人養成大学のみならず、一般大学における今後の大学教育の在り方を検討するのに必要な知見を提供しうる。

わが国の大学では社会や労働環境の変化に伴い、学生向けのキャリア教育あるいはキャリア支援が盛んである。しかし多くの大学でのキャリア教育あるいはキャリア支援は、就職活動支援にすぎない。大学生のカリキュラムとの連携のもとに、学生のキャリア発達を考慮したキャリア支援が求められるが、近年では専門教育を通じた職業的キャリア発達の育成が急務となっている。

とりわけ将来の職業人養成大学(医科大学、美術大学、音楽大学など)では、一般大学に比べて、カリキュラムや授業科目の内容と学生の職業的キャリア発達は「予定調和的」に有機的に結合され、大学生のキャリア支援も問題なく行われるかのように思われる。

しかし高校生の段階で十分な進路指導を受けることなく、「暫定的な」職業選択をしてこれら職業人養成大学に入学してきた学生は、一般大学の学生が2年次から3年次にかけて経験する将来の「職業探索」の時期にきわめて危機的な状況に置かれる場合があり、このような学生は、全入時代を背景に増えつつある。

本研究では、音楽大学ならびに音楽院において、専門的・知識の獲得を目的としたカリキュラムや授業科目において、意図された職業のみならず、広く就業力の獲得をめざした編成や設定が、どのようになされている

のかを検証する。とりわけ授業科目の内容に、どのようなキャリア発達支援的内容が潜在しているかを検証し、あわせて教育効果も検証する。

音楽大学の学生は入学までに多くの労力と時間をかけて職業的技能の研鑽に励むが、卒業後に直ちに演

奏家として活動できるわけではなく、大学での専門教育と将来の職業との不一致に悩む音楽大学生は多い。

しかしこの問題はその他の職業人養成大学が共通に抱える問題でもある。本研究はこれら大学における専

門教育と職業的キャリア育成のあり方に指針を示すものであり、広く一般大学の大学教育全体にも有益な示

唆を提供しうるものと考えらる。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 1 件)

久保田慶一：転換期の音楽キャリア形成について (音楽文化の創造平成 26 年 7 月号掲載予定)

〔学会発表〕(計 件)

〔図書〕(計 1 件)

久保田慶一：音楽とキャリア 論集

〔産業財産権〕

出願状況 (計 件)

名称：

発明者：

権利者：

種類：

番号：

出願年月日：

国内外の別：

取得状況 (計 件)

名称：

発明者：

権利者：

種類：

番号：

取得年月日：

国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

久保田慶一 (32611)

研究者番号：70170032

(2) 研究分担者

()

研究者番号：

(3) 連携研究者

()

研究者番号：